

2022年12月期 決算説明資料

2023年2月22日
大倉工業株式会社



01. 当社の概要
02. 2022年12月期 決算概要
03. 2023年12月期 業績予想
04. サステナビリティの推進
05. 参考資料



当社の概要

1

夢がある。技術がある。未来ができる。

当社の概要

証券コード	4221(東証プライム)	業種	化学
社名	大倉工業株式会社 Okura Industrial Co.,Ltd.		
本社所在地	香川県丸亀市中津町1515番地		
代表者	代表取締役社長執行役員 神田 進		
設立	1947年7月11日		
資本金	86億1千9百万円		
従業員数	1,935名(連結)、1,042名(単体)		
売上高	772億円(2022年12月期、連結)		
事業所	営業拠点 5拠点、製造拠点 5拠点		
子会社	連結子会社〔国内:11社、海外:1社〕		
	(株)KSオークラ、	(株)九州オークラ、	(株)埼玉オークラ、
	(株)オークラプロダクツ、	オークラホテル(株)、	(株)オークラプレカットシステム、
	オークラ情報システム(株)、	(株)オークラハウス、	(株)ユニオン・グラビア、
	(株)オークラパック香川、	(株)カントウ、	無錫大倉包装材料有限公司、
	非連結子会社 1社 大倉産業(株)		

【2022年12月末現在】

2022年12月期 決算概要

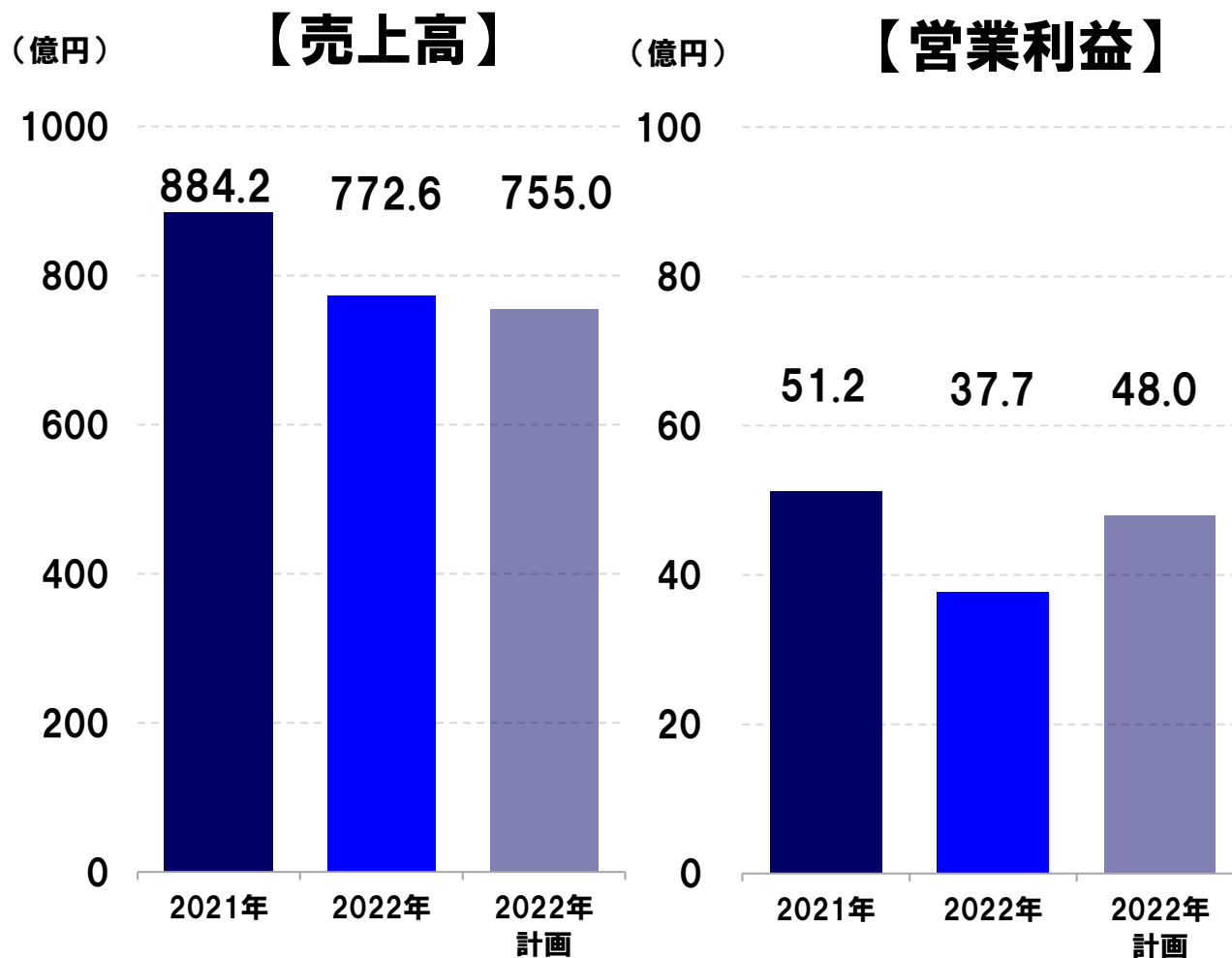
2

夢がある。技術がある。未来ができる。

当期間のセグメント別 需要増減

合成樹脂事業	需要増 ↑ ・農業用フィルムは好調 ・環境貢献製品は堅調	需要減 ↓ ・食品向け、一般包装用は需要減 ・工業用途は半導体不足が影響
新規材料事業	需要増 ↑ ・車載用途の機能性材料は新規採用で堅調	需要減 ↓ ・中国ディスプレイ市場が在庫調整局面で減少
建材事業	需要増 ↑ ・パーティクルボードは堅調 ・水廻り・内装分野が堅調 ・輸入材、他社代替により堅調	
その他関連事業	需要増 ↑ ・情報処理事業の調剤薬局向けが堅調	苦戦 ・ホテル事業は昨年より宿泊が回復するも飲食部門が戻らず苦戦

連結売上高 連結営業利益



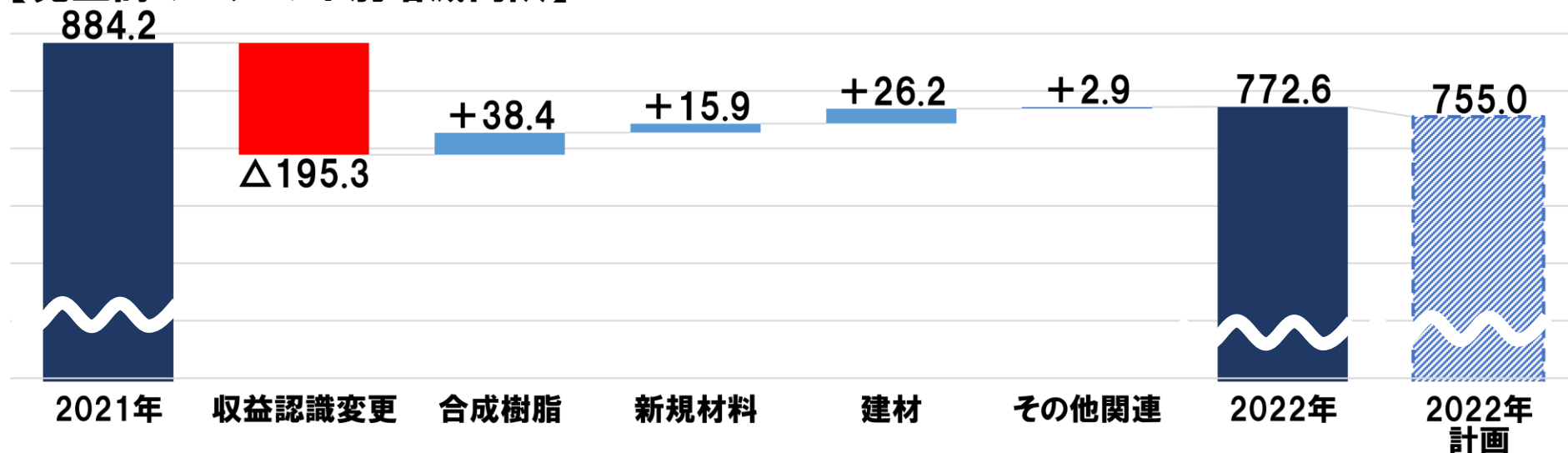
- 収益認識会計基準等の適用による売上高減少は195.3億円。
- 収益認識会計基準適用前の売上高は前年比で増加。
- 原材料価格、電力・光熱費の上昇により、営業利益は前年比で減少。

※2022年計画は、2022年2月10日に公表しました連結業績予想数値です。

セグメント別売上高、営業利益増減

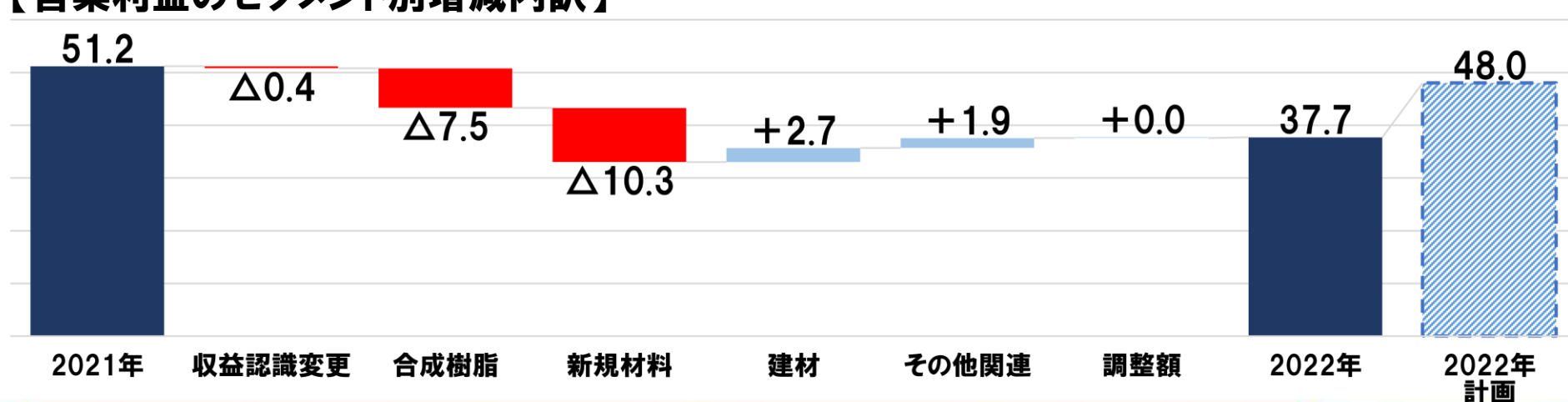
【売上高のセグメント別増減内訳】

(億円)



【営業利益のセグメント別増減内訳】

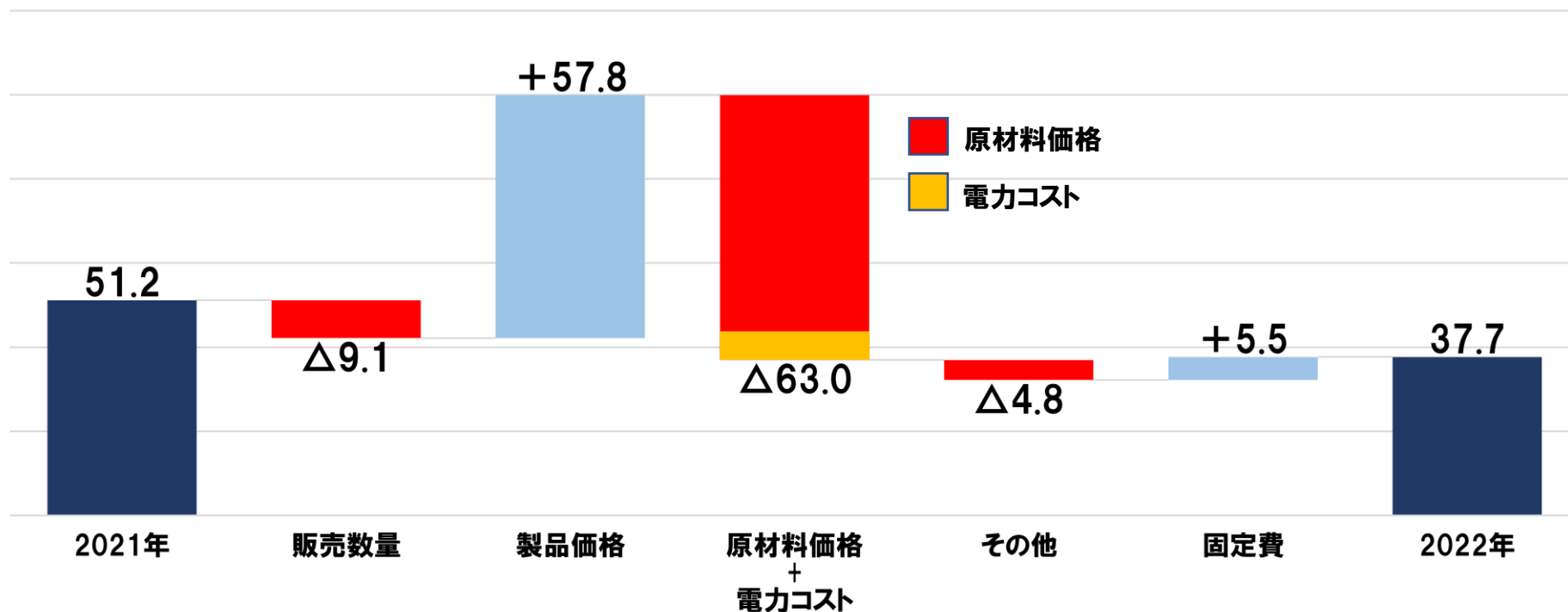
(億円)



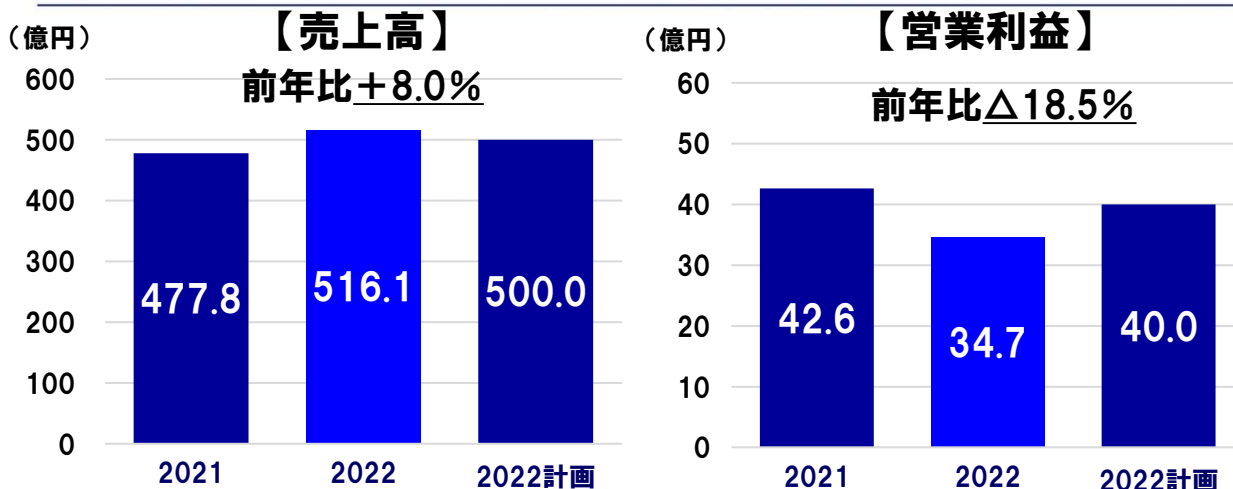
連結営業利益増減

【営業利益の要因別増減内訳】

(億円)



合成樹脂事業



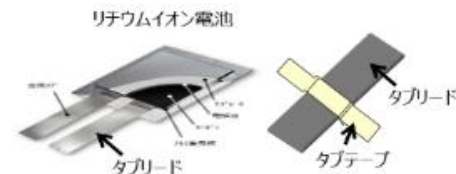
※ 2021年売上高は収益認識に関する会計基準を適用した場合の数値です。

BU別売上高	2022年 (百万円)	前年比
ライフ & パッケージング BU	18,523	+1.9%
シュリンクフィルム	9,724	+2.8%
軟包材	7,050	+1.5%
リキッドパック	1,748	△1.5%
プロセスマテリアル BU	6,752	+9.3%
ベーシックマテリアル BU	19,783	+12.1%
アグリマテリアル BU	5,509	+13.8%
その他	1,041	+11.1%
合計	51,610	+8.0%

- ▶ 農業用フィルムの他社切替及び直需活動により販売が増加。
- ▶ プロセスマテリアルの機能性フィルムが堅調。
 - ・EV市場拡大により、電池用タブフィルムの販売が増加。
 - ・住設用フィルムの販売が増加。
 - ・電子材料用フィルムは需要減。
- ▶ パッケージは巣ごもり需要の反動減。
- ▶ 原材料価格上昇に対し、製品価格修正が遅れ利益率が低下。



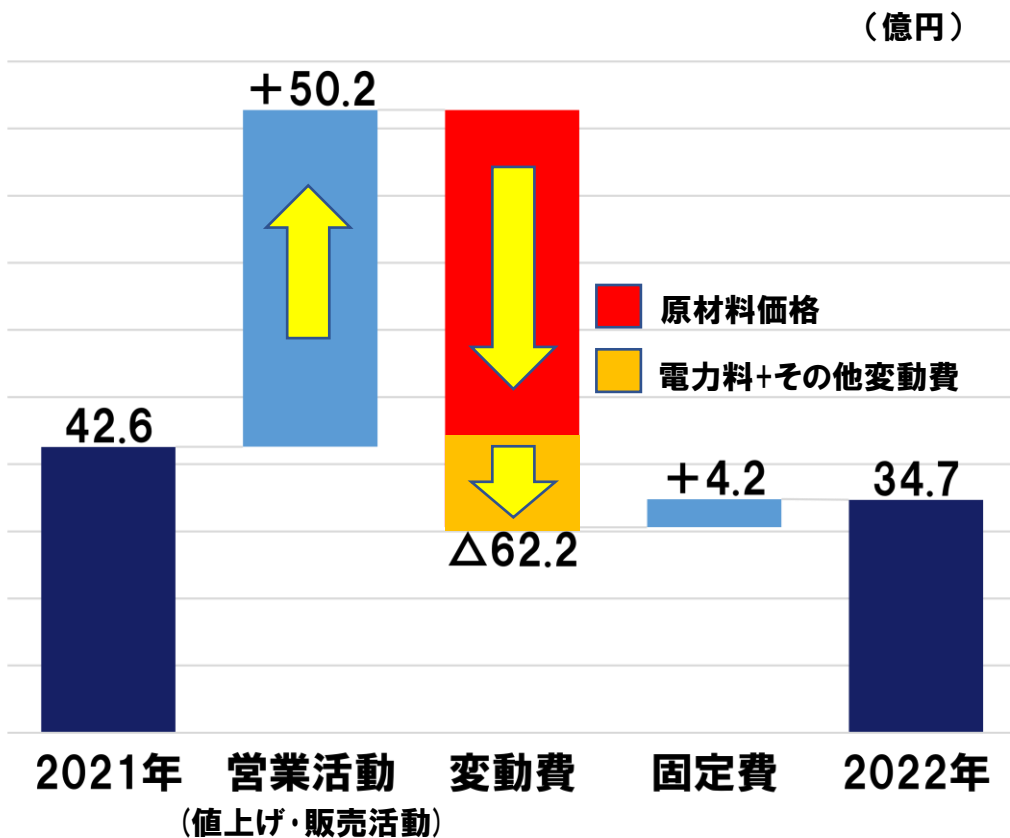
エコカルマルチ®



タブテープ

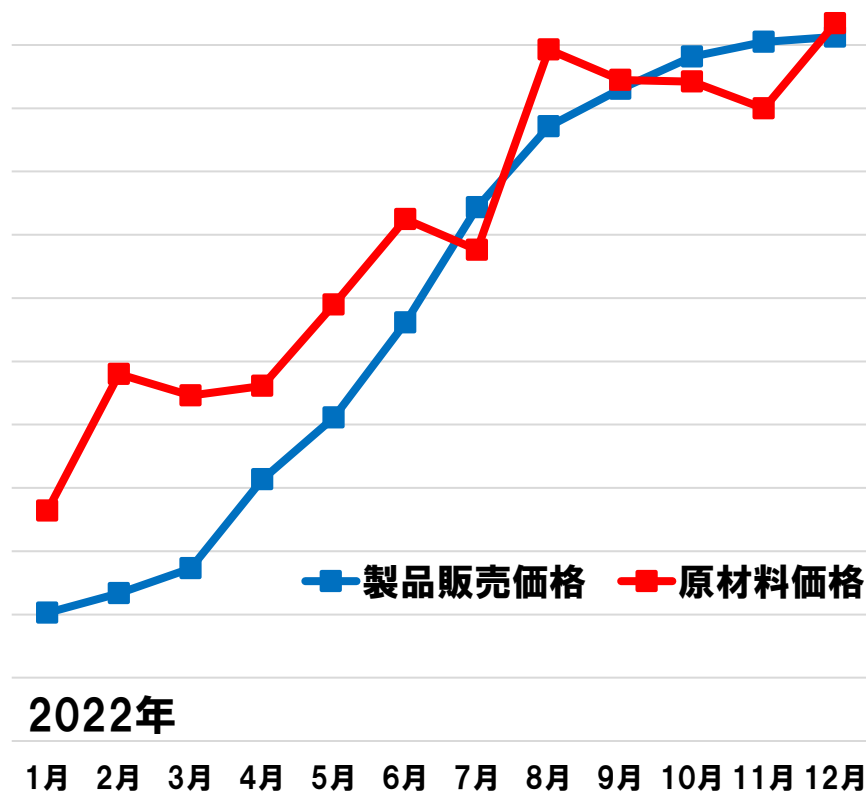
合成樹脂事業

【営業利益増減内訳】



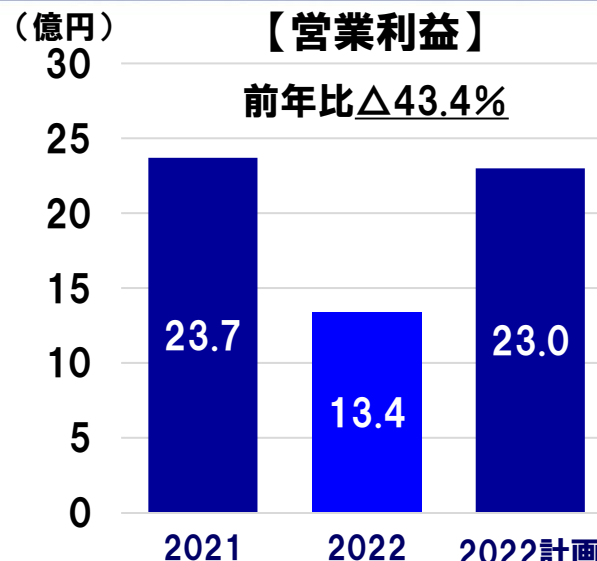
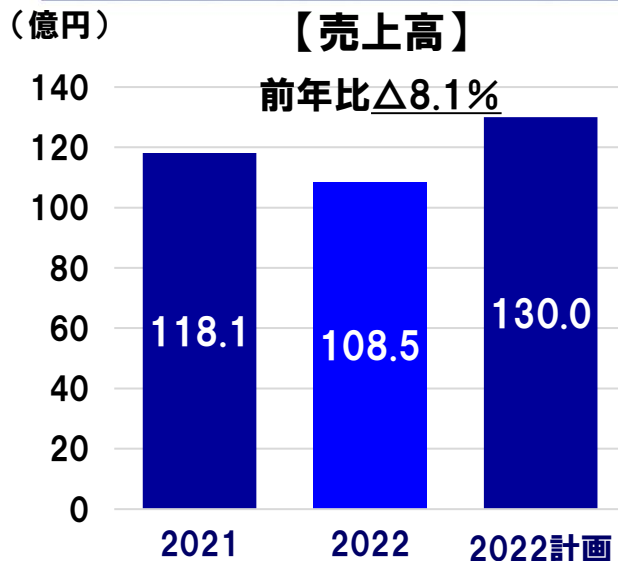
・年間では変動費全体の高騰に対し、製品価格への転嫁は約8割に留まった。

【原材料価格の上昇に対する価格転嫁の推移】



・原材料価格上昇分は、期末時点で価格転嫁。電力料等の上昇分の価格転嫁を推進中。

新規材料事業



※ 2021年売上高は収益認識に関する会計基準を適用した場合の数値です。

BU別売上高					2022年 (百万円)	前年比
機	能	材	料	BU	2,932	+9.9%
電	子	材	料	BU	2,349	+12.0%
光	学	材	料	BU	5,493	△21.1%
商	品			他	79	△4.8%
合	計			10,854	△8.1%	

▶ **機能材料**
 車載用途の機能性材料フィルム
 (ペイントプロテクションフィルム) の
 販売が堅調に推移。

▶ **電子材料**
 車載用途を中心に精密塗工事業の
 加工数量が増加。

▶ **光学フィルム**
 大型液晶パネル市場の急激な悪化
 に伴う在庫調整の影響を受け、販売
 低調。

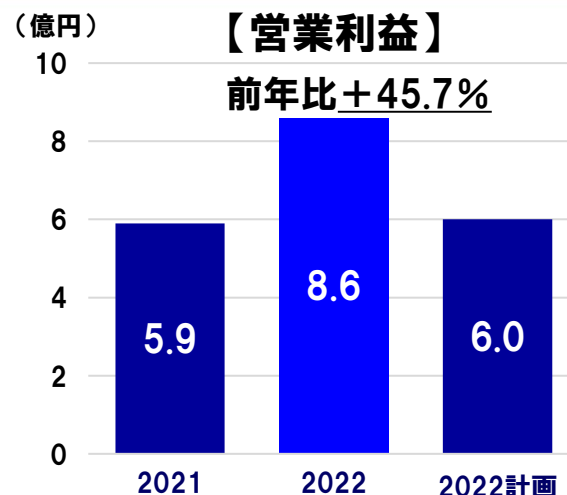
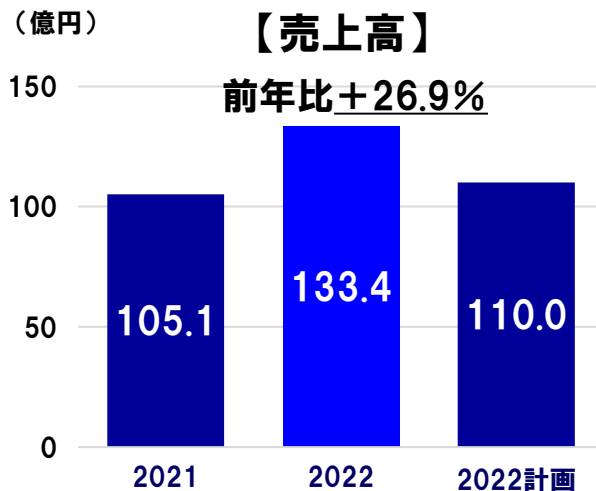


ペイントプロテクション
フィルム



光学フィルム

建材事業



※ 2021年売上高は収益認識に関する会計基準を適用した場合の数値です。

※ 2021年売上高及び営業利益は(株)オークラハウス、(株)オークラプレカットシステムをその他関連事業から建材事業セグメントに変更した数値です。

▶ **パーティクルボード製品**
水廻り・内装分野は順調に推移。

住宅設備機器



▶ **環境資材製品・住宅部材製品**
環境貢献型枠「木守®」を中心に増加。

木守®



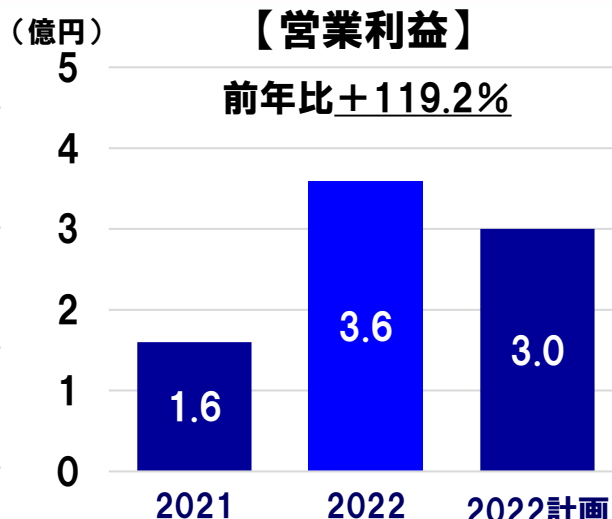
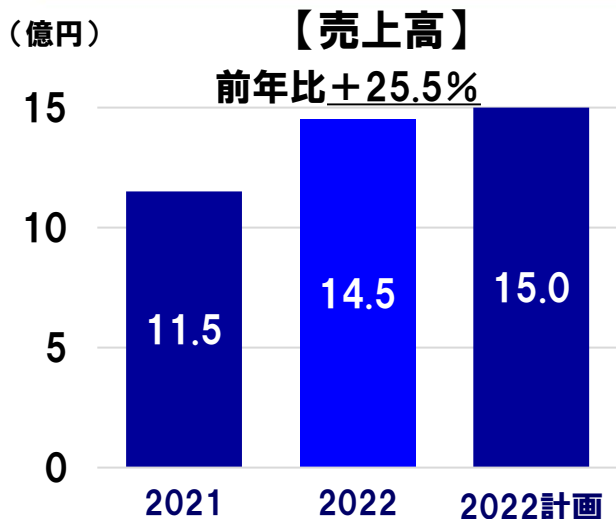
▶ **ハウス事業・プレカット事業**
市場全体ではウッドショックの影響を受けるも資材確保でき売上は増加。



オークラプレカットシステム
非住宅物件(保育園)

製品別売上高	2022年 (百万円)	前年比
パーティクルボード製品	7,406	+18.6%
環境資材製品	956	+69.8%
住宅部材製品	379	+97.1%
ハウス事業	1,109	+15.1%
プレカット事業	3,918	+32.2%
消去・組替	△429	—
合計	13,341	+26.9%

その他関連事業



※ 2021年売上高は収益認識に関する会計基準を適用した場合の数値です。

※ 2021年売上高及び営業利益は(株)オークラハウス、(株)オークラプレカットシステムをその他関連事業から建材事業セグメントに変更した数値です。

事業別売上高	2022年 (百万円)	前年比
ホテル事業	597	+84.8%
情報処理事業	1,412	+8.5%
賃貸事業	649	△0.1%
消去・組替	△1,205	—
合計	1,454	+25.5%

▶ **ホテル事業**
宿泊は、回復基調。
コロナ影響により、宴会の低迷が続く。



▶ **情報処理事業**
調剤薬局向け調剤鑑査システムの販売が堅調。



▶ **賃貸事業**
11月 賃貸用不動産(福岡市)を売却。

連結損益計算書

(億円)

	2021年	2022年	増減額	増減率	主な内訳
売上高	884.2	772.6	—	—	(当期) 収益認識会計基準△195.3
営業利益	51.2	37.7	△ 13.5	△26.4%	
営業外収益	5.4	5.7	+ 0.2		
営業外費用	1.4	0.7	△ 0.6		
経常利益	55.3	42.7	△ 12.5	△22.7%	
特別利益	3.4	15.4	+11.9		(当期) 固定資産売却益15.4
特別損失	9.4	5.3	△ 4.0		(当期) 減損損失4.2
税金等調整前 当期純利益	49.3	52.7	+ 3.4	+ 6.9%	
法人税等	15.1	14.9	△ 0.2		
親会社株主に帰属する 当期純利益	34.1	37.8	+ 3.7	+10.9%	

連結貸借対照表

(億円)

	2021年期末	2022年期末	増減額	主な内訳
(資産の部)				
流動資産	469.5	506.4	+ 36.8	現預金 $\Delta 13.1$
固定資産	389.1	395.9	+ 6.8	売上債権 +24.3 棚卸資産 +18.1
資産合計	858.6	902.3	+43.6	
(負債の部)				
流動負債	279.7	295.0	+ 15.3	仕入債務 +19.7
固定負債	53.7	51.3	$\Delta 2.4$	借入金 $\Delta 9.3$
負債合計	333.4	346.4	+12.9	
(純資産の部)				
純資産合計	525.2	555.9	+ 30.6	利益剰余金 +29.5 有価証券評価差額金 +2.7
(自己資本比率)	(61.1%)	(61.6%)		
借入金残高	33.1	23.7	$\Delta 9.3$	

連結キャッシュ・フロー計算書

(億円)

	2021年	2022年
現金及び現金同等物期首残高	91.7	97.6
営業活動によるキャッシュ・フロー	63.4	37.0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△27.6	△33.1
財務活動によるキャッシュ・フロー	△30.4	△17.7
現金及び現金同等物期末残高	97.6	84.4

【主な内訳】

営業キャッシュ・フロー

税金等調整前当期純利益

+52.7億円

減価償却費

+42.5億円

売上債権の増加

△24.3億円

棚卸資産の増加

△18.0億円

投資キャッシュ・フロー

製造装置等の有形固定資産の取得

△51.2億円

有形固定資産の売却

+19.5億円

財務キャッシュ・フロー

借入金の減少

△9.4億円

配当金の支払

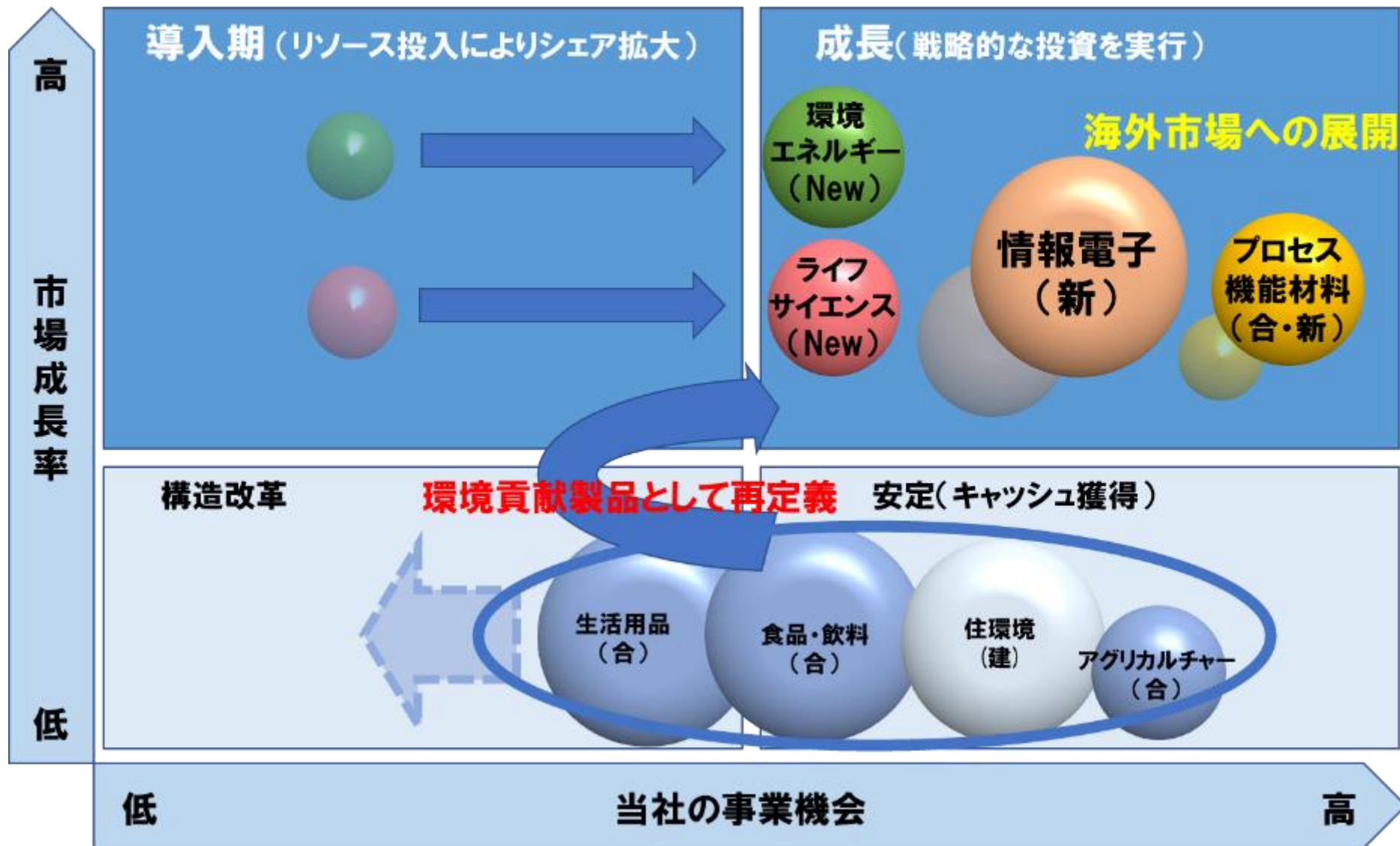
△8.3億円

2023年12月期 業績予想

3

夢がある。技術がある。未来ができる。

経営ビジョンNext10 (2030) で目指す事業ポートフォリオの深化



中期経営計画（2024）の位置づけ

経営ビジョン Next10（2030）

要素技術を通じて、新たな価値を創造し、
お客様から選ばれるソリューションパートナー

中期経営計画（2024）の位置づけ

グループビジョン実現へ向けた第2ステージ

【事業ポートフォリオの高度化】

Stage 1

Stage 2 【土台作り & 基盤強化】

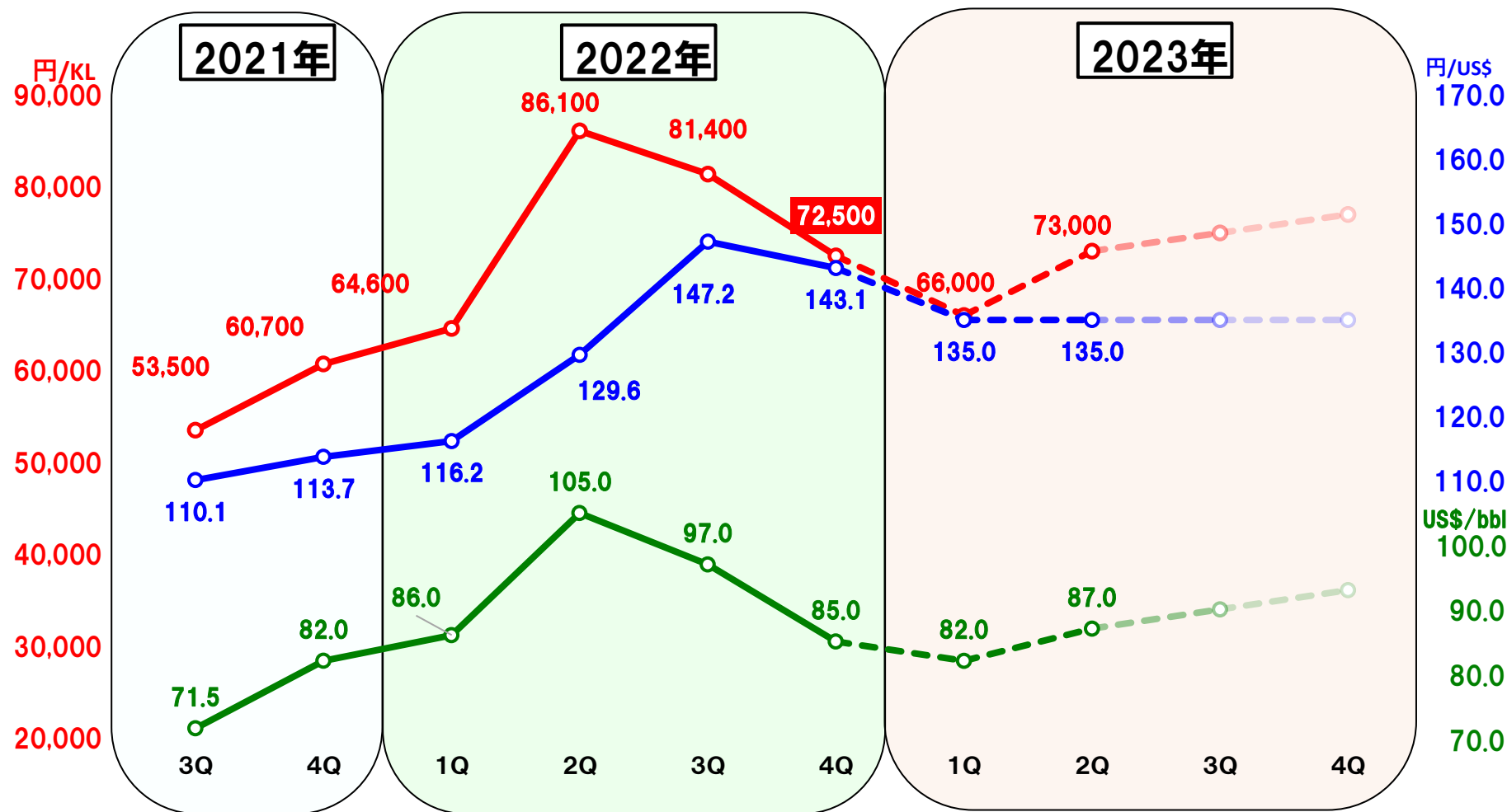
Stage 3

【基本方針】

1. 既存事業の質的向上⇒収益力強化
2. 戦略・成長投資の拡大
3. サステナビリティ・ESG推進

国産ナフサ価格、ドバイ原油価格及び為替の動向

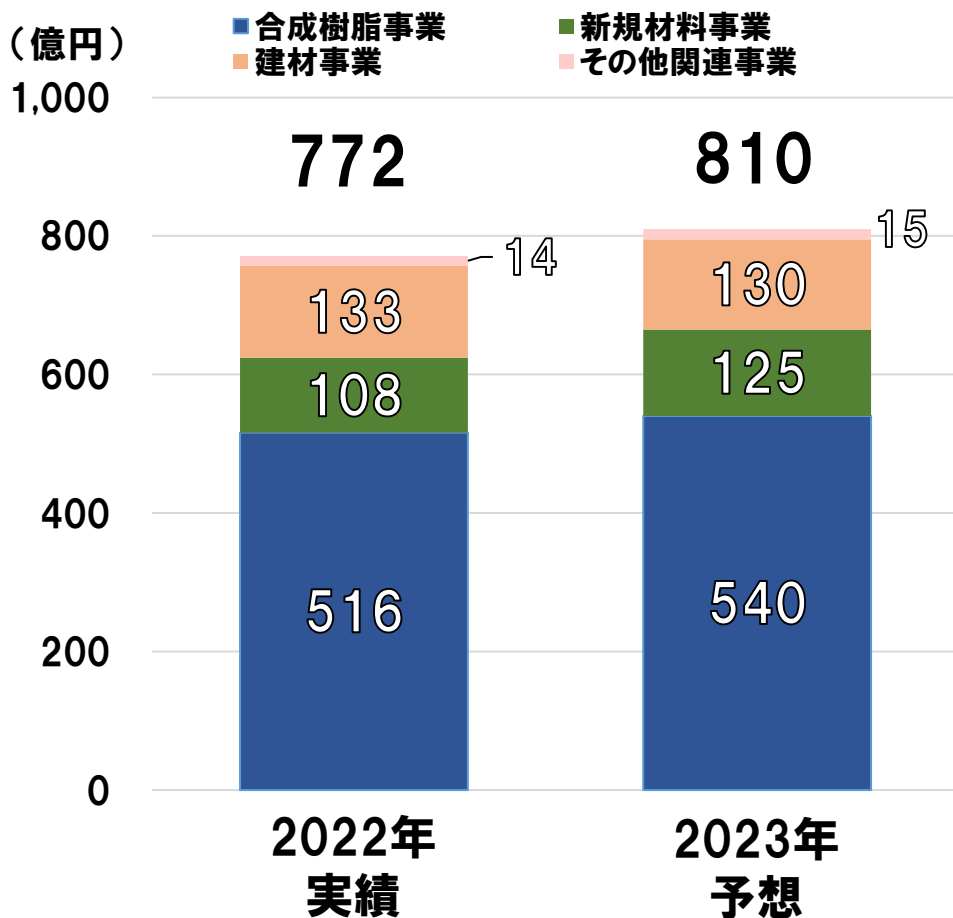
左軸 (赤線) : ナフサ価格 (円/KL) 右軸 (緑線) : ドバイ原油価格 (US\$/bbl) 右軸 (青線) : 為替 (円/US\$)



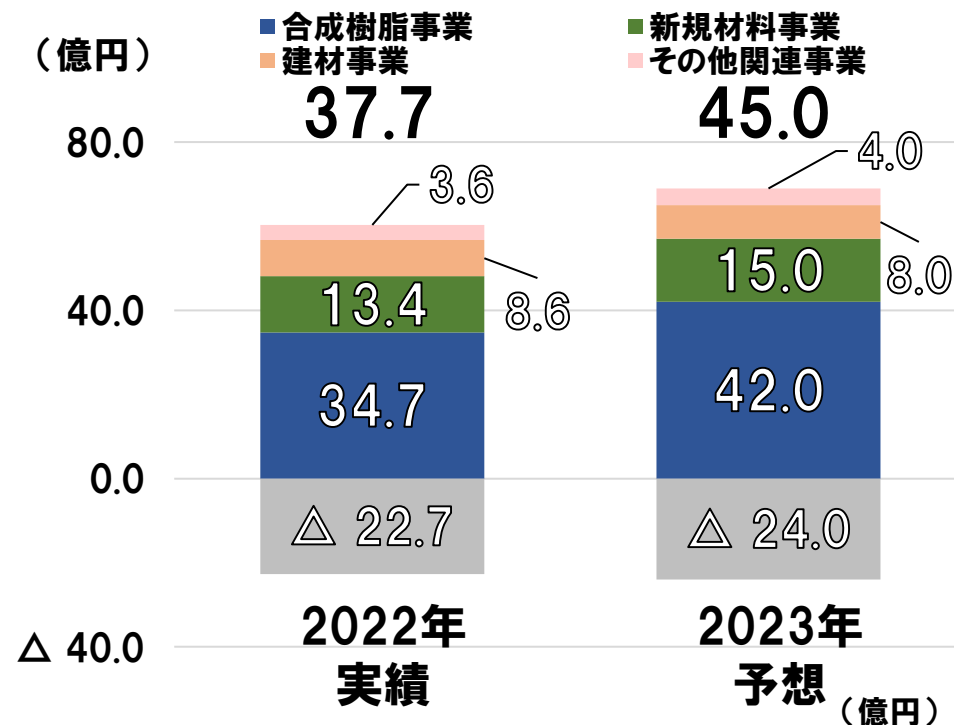
※折れ線グラフ中の点線の値は当社予想値。

業績予想 セグメント別売上高、営業利益

【売上高】

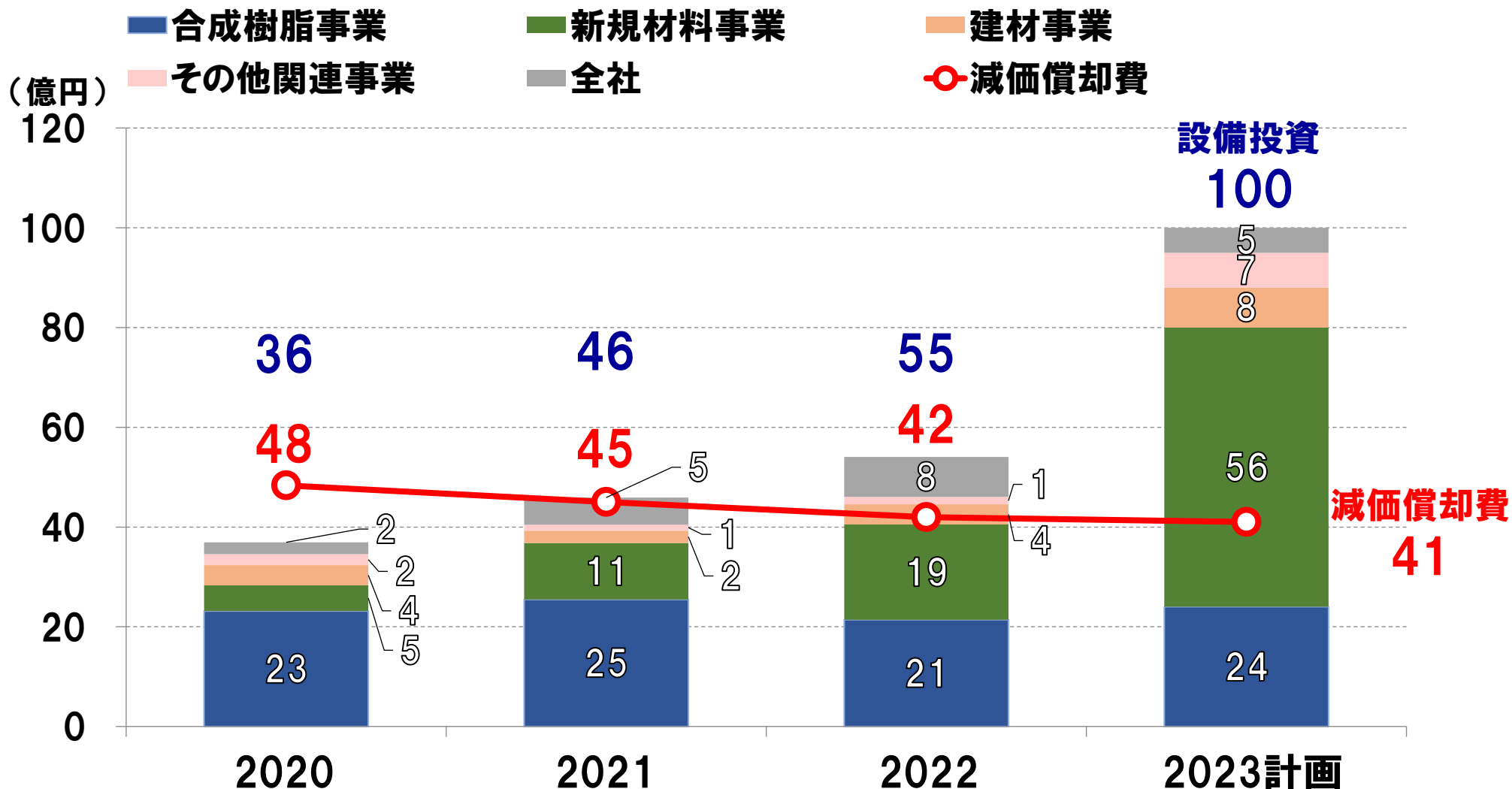


【営業利益】



	2022年実績	2023年予想	前年比
経常利益	42.7	48.0	+12.3%
親会社株主に帰属する当期純利益	37.8	35.0	△7.6%

設備投資(工事ベース)及び減価償却費



※2021年まで「その他関連事業」に集約していた住宅事業、木材加工事業の投資金額を2022年より「建材事業」に含めております。

2023年業績予想 セグメント別

(億円)

(億円)

	2022年 実績	2023年 予想	前年比
売上高	772.6	810.0	+4.8%
合成樹脂	516.1	540.0	+4.6%
新規材料	108.5	125.0	+15.2%
建 材	133.4	130.0	△2.6%
その他関連	14.5	15.0	+3.2%
営業利益	37.7	45.0	+19.3%
合成樹脂	34.7	42.0	+20.8%
新規材料	13.4	15.0	+11.7%
建 材	8.6	8.0	△7.2%
その他関連	3.6	4.0	+9.4%
全 社	△22.7	△24.0	-

	2022年 実績	2023年 計 画	前年比
設備投資	55.2	100.0	+81.0%
合成樹脂	21.4	24.0	+11.8%
新規材料	19.0	56.0	+193.9%
建 材	4.0	8.0	+96.1%
その他関連	1.7	7.0	+290.1%
全 社	8.8	5.0	△43.5%
減価償却費	42.5	41.0	△3.6%
合成樹脂	22.6	22.5	△0.8%
新規材料	9.4	9.0	△4.9%
建 材	4.2	4.0	△6.8%
その他関連	2.8	2.0	△28.9%
全 社	3.2	3.5	+7.0%

合成樹脂事業 今期の取組み

プロセス機能材料の拡販・開発

- ・半導体のパッケージ用や工程用(導電性フィルム)の拡販
- ・LIB電池用タブテープの拡販
- ・リサイクルPP化粧フィルムの拡販



導電性フィルム



リサイクルPP



PP化粧フィルム



環境貢献製品(Caerula®)の開発・拡販

- ・モノマテリアルフィルム、リサイクルフィルムの拡販
- ・減容化パウチ製品の広幅生産による競争力アップ
- ・7種7層製造装置の導入による高機能多層フィルムの拡販



反射天井材



広幅グラフィア印刷機



詰替用スパウト付き製品

コスト上昇に対する製品価格転嫁を継続

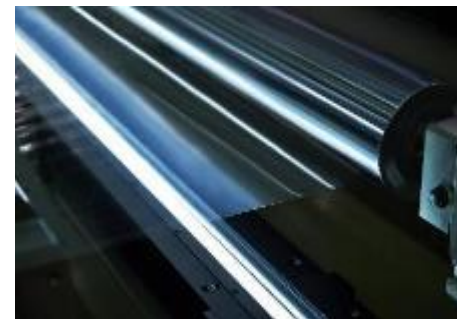
- ・2022年期末時点で原料価格上昇分は、ほぼ製品価格に転嫁
- ・電力料、ユーティリティー価格上昇分の製品価格転嫁に注力

新規材料事業 今期の取組み

ディスプレイ市場は、大きな在庫調整局面が継続。
今期、中国偏光板メーカーの生産能力増強計画に伴い広幅化が進む。
スマホの需要回復は不透明。

大型液晶パネル向け光学フィルム 生産能力増強

- ・大型液晶パネル向け光学フィルム ⇒ 生産能力2倍へ
- ◇丸亀工場 MC1ライン改造
2,500mm幅の顧客需要が回復傾向。新規顧客へアプローチ。
- ◇仲南工場 新工場は計画どおり、2023年12月の量産開始予定。



海外子会社の設立

OKURA VIETNAM CO.,LTD.(仮称) 2023年5月設立予定

資本金 : 525百万円(予定)

出資比率: 85.1%

稼働開始: 2025年1月(予定)

接着剤事業を第1期として、合成樹脂事業含め、
全社的な事業での拡大を目指す。

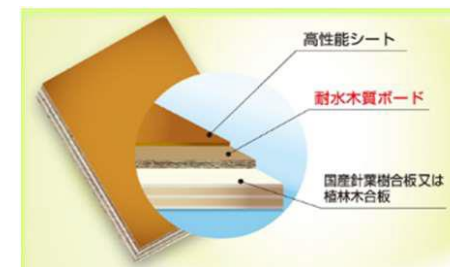


イメージ図

建材事業 今期の取組み

環境貢献型枠「木守®」の拡販

- ・既存先の深耕とゼネコンへの提案、採用促進
- ・新設備を導入により2022年7月から生産能力拡大、生産性向上
⇒ 今期は、販売枚数30,000枚/月⇒70,000枚/月を目指す



加工ボードの拡販

- ・ダイニングキッチン、洗面用途を中心とした加工ボードの拡販



非住宅物件施工例

非住宅分野の拡大

- ・商業ビル、公共施設、小売り店舗等の非住宅物件をターゲットに拡販。



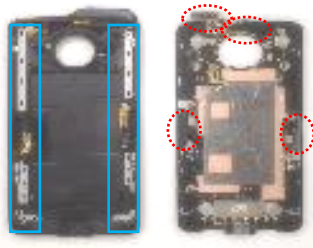
R & Dセンター 今期の取組み

情報電子

第5世代移动通信システム(5G)向け
高周波基板用フィルム



高周波低損失基板用フィルム
【当社開発品】



5Gスマートフォン

次世代通信規格5Gで要求される
伝送損失が低く、耐熱性・寸法安
定性に優れたフィルムを開発
量産化に向けた取組みを加速

環境・
エネルギー

プラスチックリサイクル
材料設計、樹脂設計

マテリアルリサイクル
ケミカルリサイクル
～市場回収したフィルムの
リサイクル技術の確立～



情報電子

精密塗工製品の開発

- ・車載ディスプレイ用フィルム
精密塗工により機能性を付与



- ・次世代太陽電池材料の開発

ライフ
サイエンス

植物加工技術を活用したヘルスケア、
スキンケア用原料の開発

展示会出展、地域社会や産官学連携
し、当社抽出技術の各種植物への応
用展開を実施



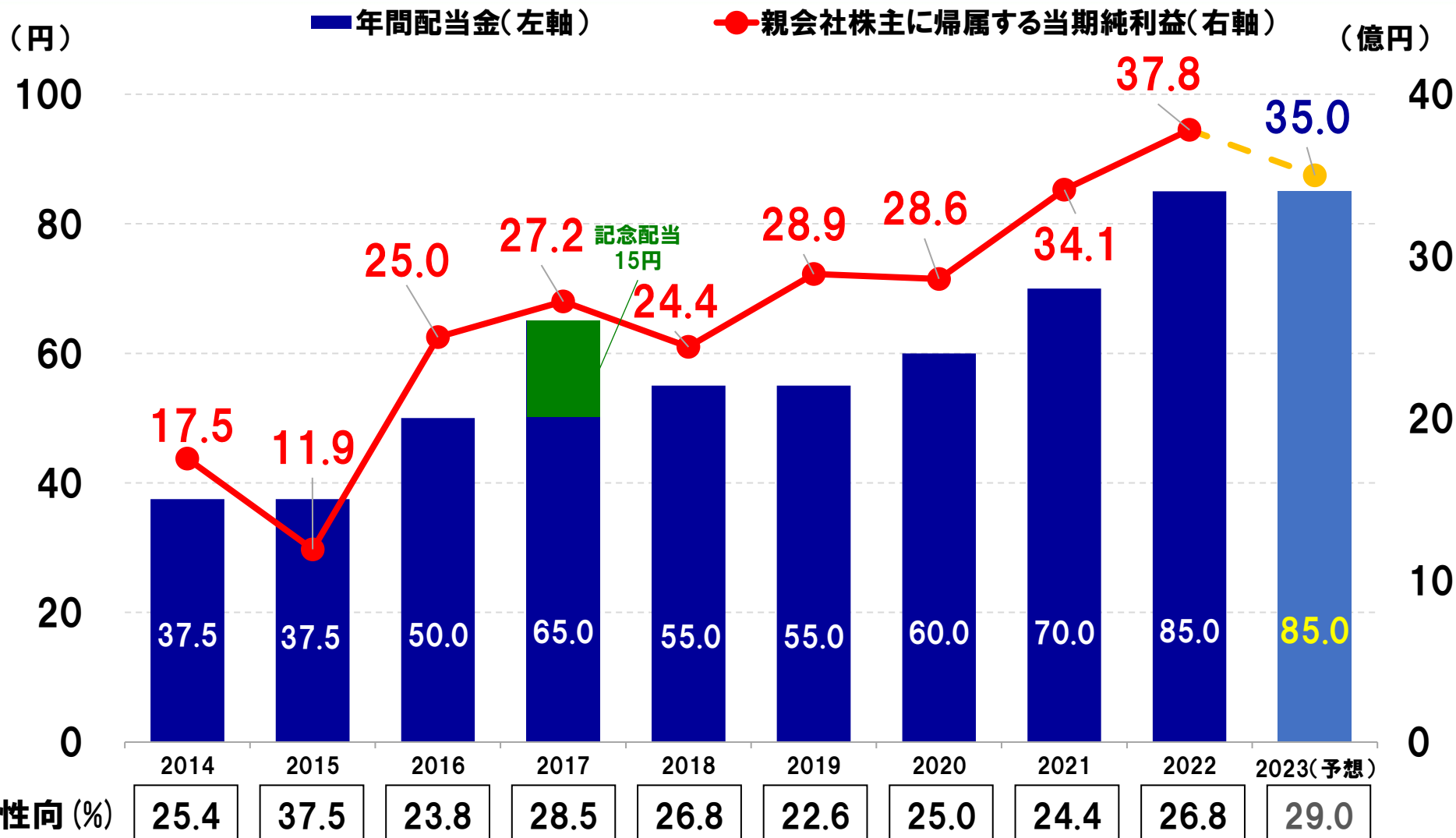
ライフ
サイエンス

バイオ医薬品、ワクチン培養用
シングルユースバック

- ・バイオ医薬品やワクチン製造時の
細胞培養工程で使用されるバッグ
- ・細胞培養装置用バッグとして
販売開始



株主還元



2022年期末配当金は、一株当たり85円に増配。

サステナビリティの推進

4

夢がある。技術がある。未来ができる。

当社のサステナビリティ

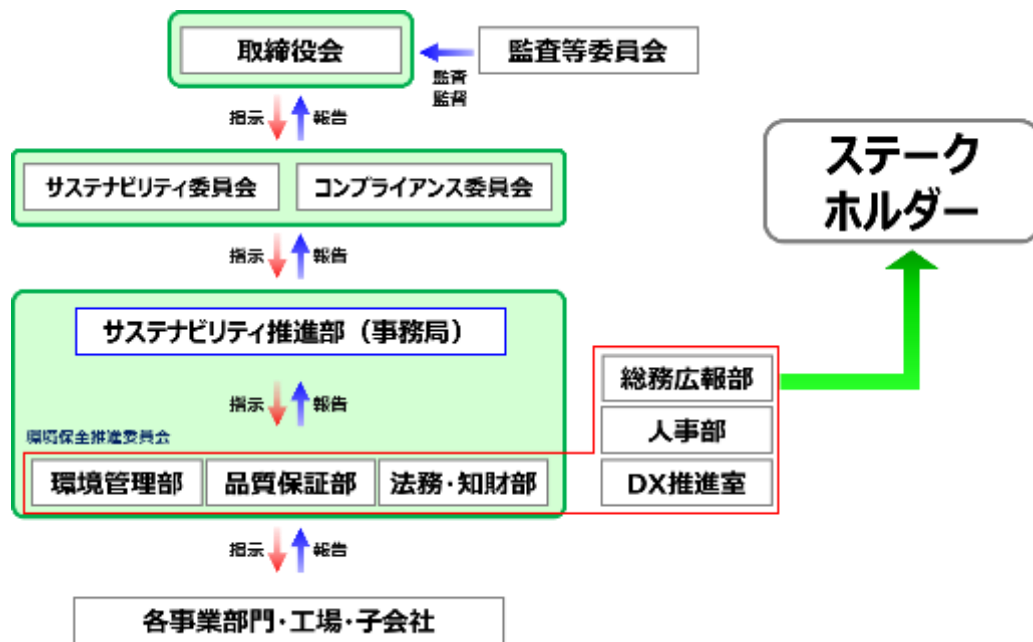
サステナビリティ基本方針

「社会から信頼される企業」であり続けるために、事業を通じて、社会との共生を念頭に企業の成長を目指す

サステナビリティ基本原則

1. 事業とESGの両立
2. 地球環境の保全
3. 法令順守・人権尊重と労働環境の配慮
4. 情報開示と対話

サステナビリティ推進体制



当社サステナビリティ取組みの評価

CDP 2022年評価結果



気候変動 B スコア

重要課題「マテリアリティ」の中で、「脱炭素経営（気候変動対策）の推進」、「資源循環対策の更なる推進」、「環境貢献製品の創出と拡大」を掲げ、取組みを推進しています。当社Gは気候変動を喫緊の課題と捉え、対策を推進するとともに積極的な情報開示を推進してまいります。

スコア	レベル	
A～A-	リーダーシップ	環境問題をどのように解決しようとしているか
B～B-	マネジメント	どのように環境問題によるリスクや影響を管理しているか
C～C-	認識	環境問題が自社の事業にどのような影響をもたらすか
D～D-	情報開示	現状の把握ができていますか

CDPデータ2022	
回答企業	約18,700社
(うち日本)	(約1,700社)
プラスチック製品製造セクター平均	C
グローバル企業平均	C
アジア企業平均	C

サステナビリティの推進 E:環境

Environment : 環境

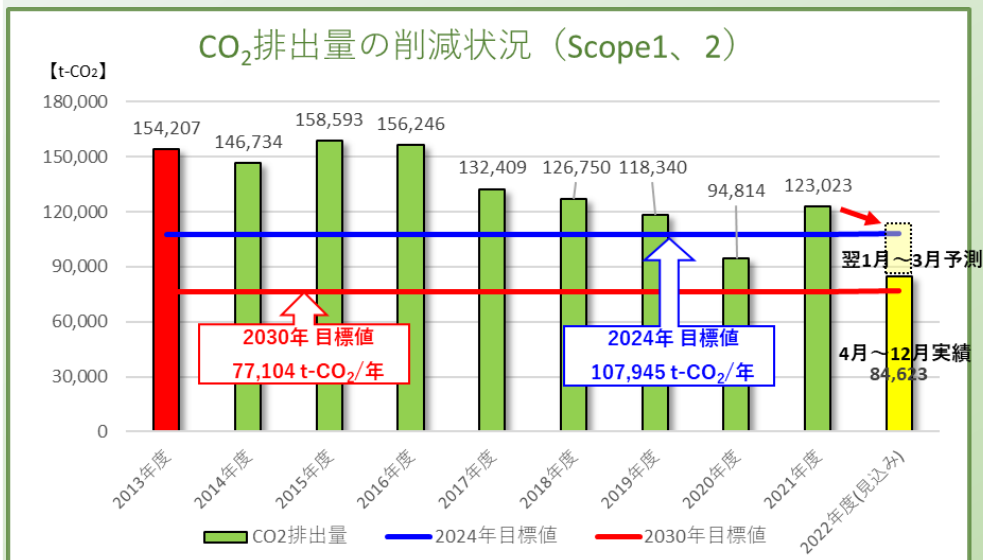
2024年目標

CO₂排出量:30%以上削減
 市場回収廃プラリサイクル製品売上:10億円以上
 生活サポート群環境貢献製品売上高比率:50%以上



脱炭素経営(気候変動対策)の推進

CO₂排出量推移状況



□2022年度CO₂排出量
 対基準年度(2013年)比 ▲25%の見込み

太陽光発電導入状況

拠点	太陽光発電電力 (MWh/年)	稼働開始
本社	1,139	23年2Q
KSオークラ	476	1月開始
九州オークラ	1,180	23年3Q
詫間工場	2,660	24年1Q
仲南工場	2,763	検討開始

□CO₂削減量
 約2,700 t-CO₂/年
 (上段4事業所合計)



KSオークラ太陽光発電設備

サステナビリティの推進 E:環境

Environment : 環境

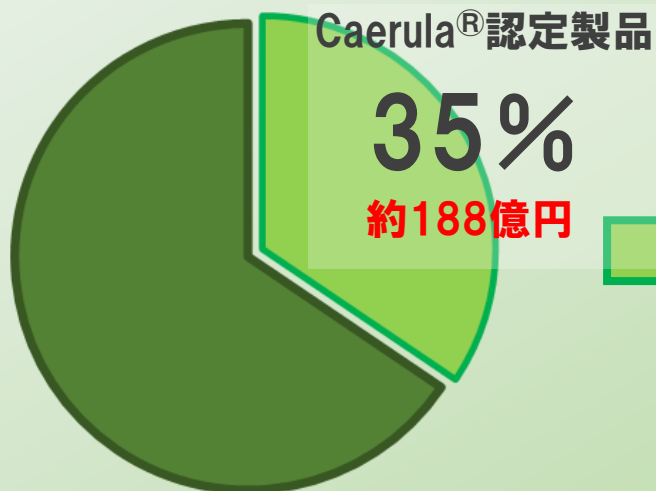
2024年目標

CO₂排出量:30%以上削減
 市場回収廃プラリサイクル製品売上:10億円以上
 生活サポート群環境貢献製品売上高比率:50%以上

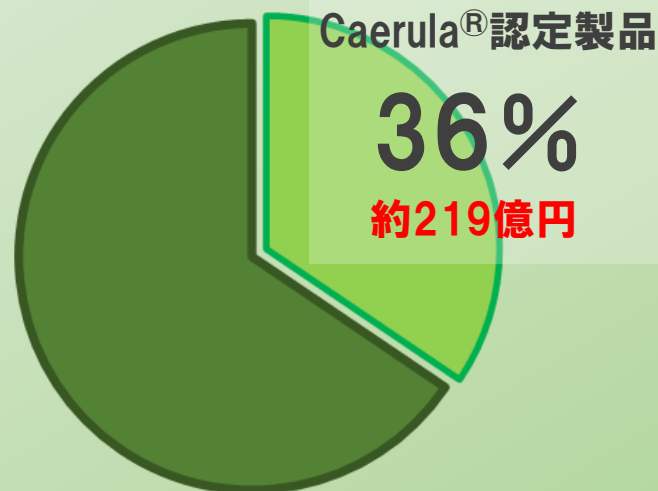


環境貢献製品の創出と拡大

2021年売上高実績



2022年売上高実績



2023年度取組目標 45%以上

サステナビリティの推進 E:環境

Environment : 環境

2024年目標

CO₂排出量:30%以上削減
 市場回収廃プラリサイクル製品売上:10億円以上
 生活サポート群環境貢献製品売上高比率:50%以上

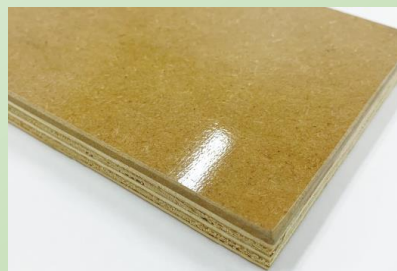


環境貢献製品の創出と拡大

■環境貢献製品「Caerula®(カエルラ)」



- 木守®
- バイオマスシュリンクフィルム
- リサイクルPP化粧フィルム
- バイオマスポリエチレン「ビオナチュレ®」
- Endo barrier®
- エコカルマルチ®



木守®



バイオマスシュリンクフィルム



リサイクルPP化粧フィルム



ビオナチュレ®



Endo barrier®



エコカルマルチ®

サステナビリティの推進 E:環境

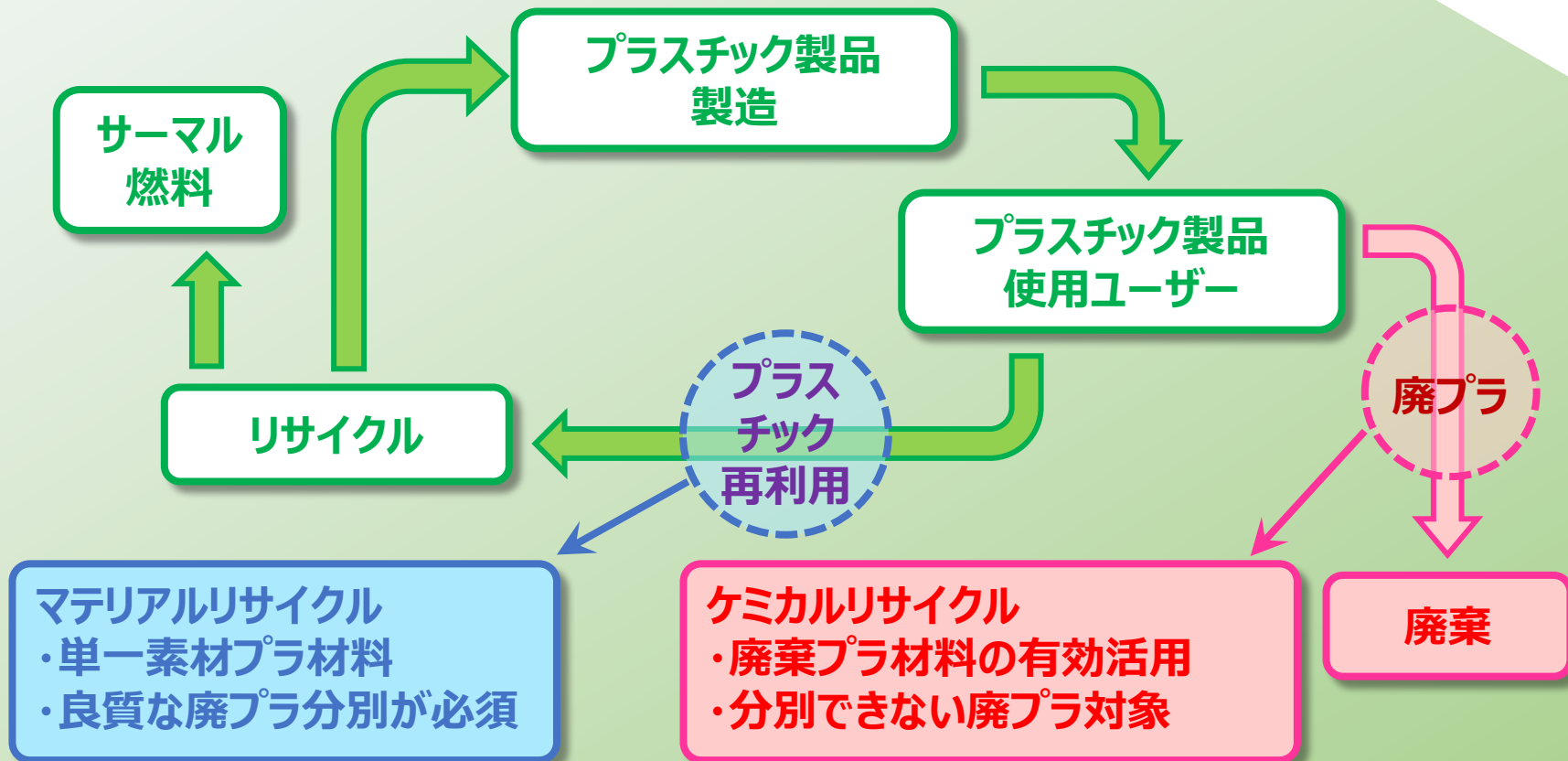
Environment : 環境

2024年目標

CO₂排出量:30%以上削減
 市場回収廃プラリサイクル製品売上:10億円以上
 生活サポート群環境貢献製品売上高比率:50%以上



資源循環対策の更なる推進



サステナビリティの推進 E:環境

Environment : 環境

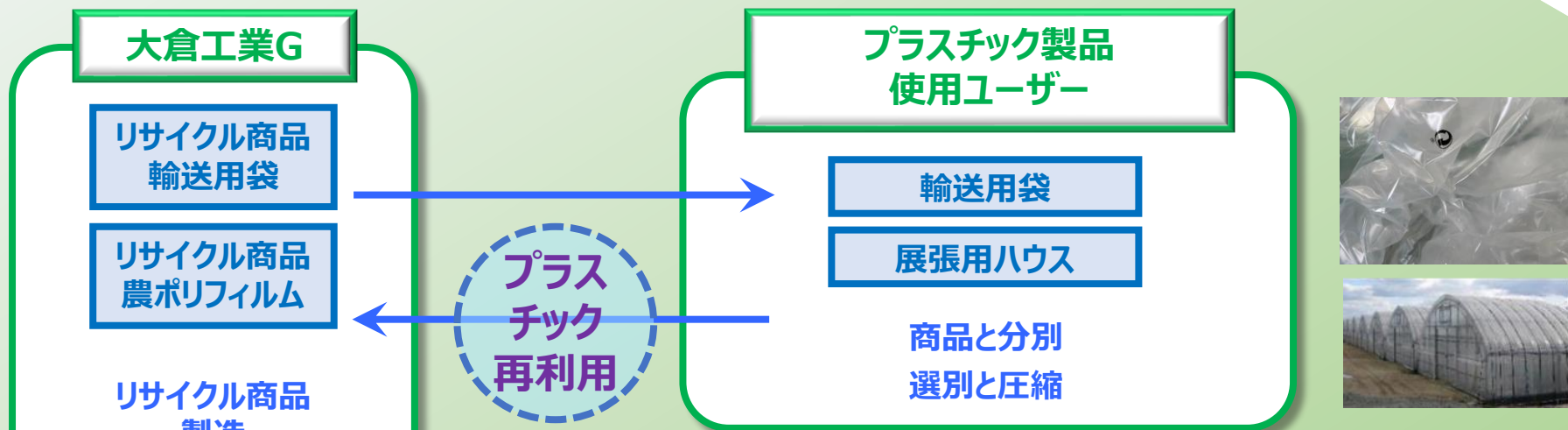
2024年目標

CO₂排出量:30%以上削減
 市場回収廃プラスチック製品売上:10億円以上
 生活サポート群環境貢献製品売上高比率:50%以上



資源循環対策の更なる推進

マテリアルリサイクルスキーム①：輸送袋、アグリフィルム等の再生利用



リサイクル製品	2023年計画/ t	前年比
PP化粧フィルム	250	32%増
エコカルマルチ®	1,000	1,500%増

サステナビリティの推進 E:環境

Environment : 環境

2024年目標

CO₂排出量:30%以上削減
 市場回収廃プラリサイクル製品売上:10億円以上
 生活サポート群環境貢献製品売上高比率:50%以上



資源循環対策の更なる推進

マテリアルリサイクルスキーム②：自治体ゴミ袋の再利用



サステナビリティの推進 S:社会

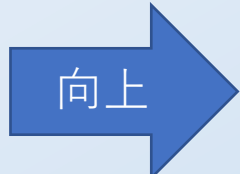
Social: 社会

2030
 ダイバーシティ経営の実現
 積極的に地域社会活動・イベントへ参加する文化の構築
 新しい顧客価値の創出
 ビジネスモデルの転換



ダイバーシティ

	2021年
女性社員構成比	16.0%
女性役職者構成比	9.8%



S:社会WGの設立(2022年7月)

→ 女性分科会の設置(2022年10月)

- 賃金格差
- 女性管理職
- 男性育休取得

女性活躍社会環境構築の推進

健康経営

□「健康経営優良法人2022」に認定

→ 「健康経営優良法人2023」認定予定(3月)



サステナビリティの推進 S:社会

Social: 社会

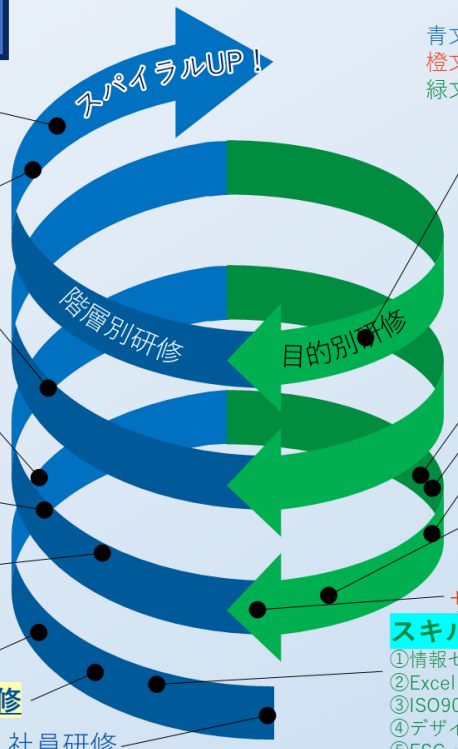
2030

ダイバーシティ経営の実現
積極的に地域社会活動・イベントへ参加する文化の構築
新しい顧客価値の創出
ビジネスモデルの転換



人材育成

- 次世代リーダー育成研修
経営戦略、財務戦略
マーケティング、組織変革
- 経営幹部育成研修
事業戦略、財務基礎、イノベーション
- 新任管理職研修
組織目標設定、問題解決、リーダーシップ
職場変革、メンタルヘルス、ハラスメント
- 創造的リーダー養成
組織行動・人的資源管理
アカウント・マネジメント・マーケティング
- 女性監督職研修、新任監督職研修
職場改善・コーチング・ロジカルシンキング
- 中堅社員研修
プレゼン、課題設定、コーチング
- 女性活躍推進研修
- フォローアップ研修
- 新入社員研修
マナー、コンプライアンス



青文字：階層別研修
橙文字：職種別テクニカルスキル
緑文字：全社共通実践知識

スキル応用教育

- ① 労務管理研修・評価者訓練
- ② ESG・SDGs研修(上級編)
- ③ コンプライアンス研修(上級編)
- ④ 知的財産教育(上級編)
- ⑤ SDGs・TCFD教育

技術者基礎知識教育
発明提案書作成教育
技術者基礎教育

スキル中級教育

- ① ESG・SDGs研修(中級編)
- ② コンプライアンス研修(中級編)
- ③ 知的財産研修(中級編)
- ④ 会計研修(上級編・中級編)
- ⑤ 情報セキュリティ教育

サーチャージャー教育

スキル基礎教育

- ① 情報セキュリティ教育(初級編)
- ② Excel・Word・PP基礎教育
- ③ ISO9001導入教育
- ④ デザインレビュー実施手順の教育
- ⑤ ESG・SDGs研修(初級編)
- ⑥ 財務会計システム研修(SAP)
- ⑦ 会計研修(簿記)

注力テーマ

- 次世代リーダー養成
- ITリテラシー向上
- 女性活躍環境向上

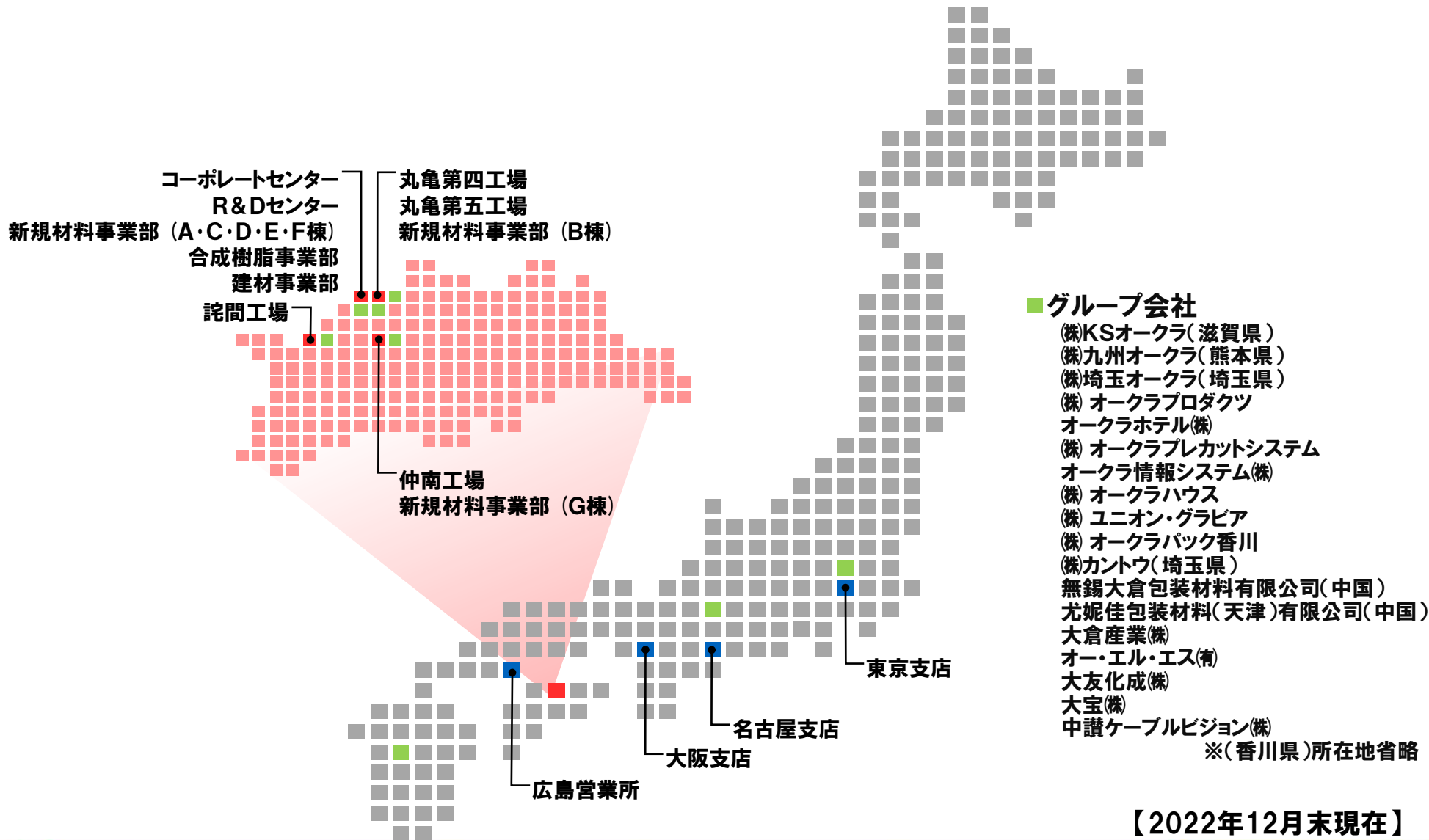
ご清聴ありがとうございました

参考資料

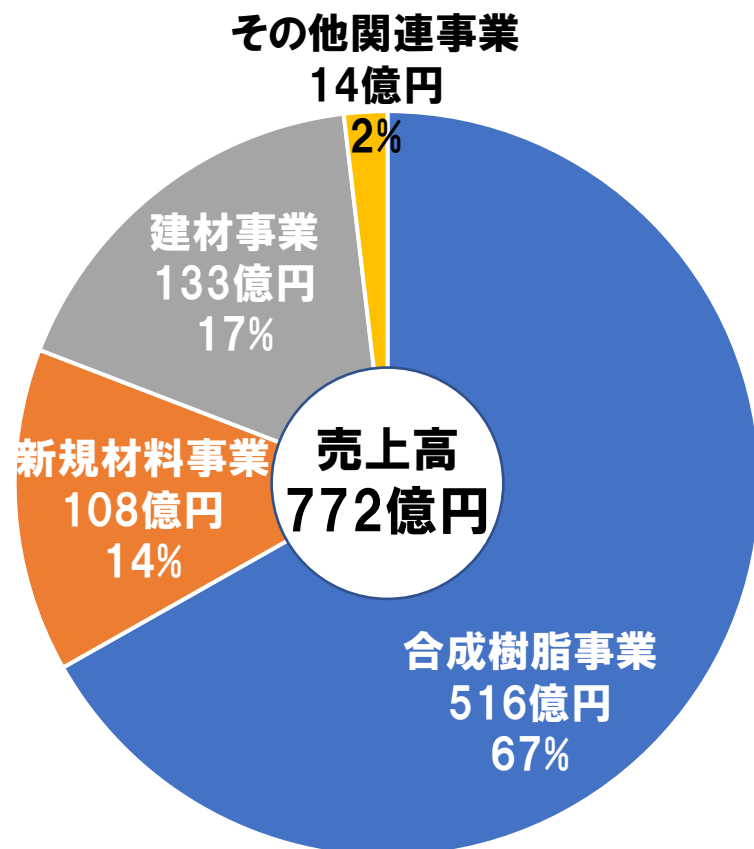
5

夢がある。技術がある。未来ができる。

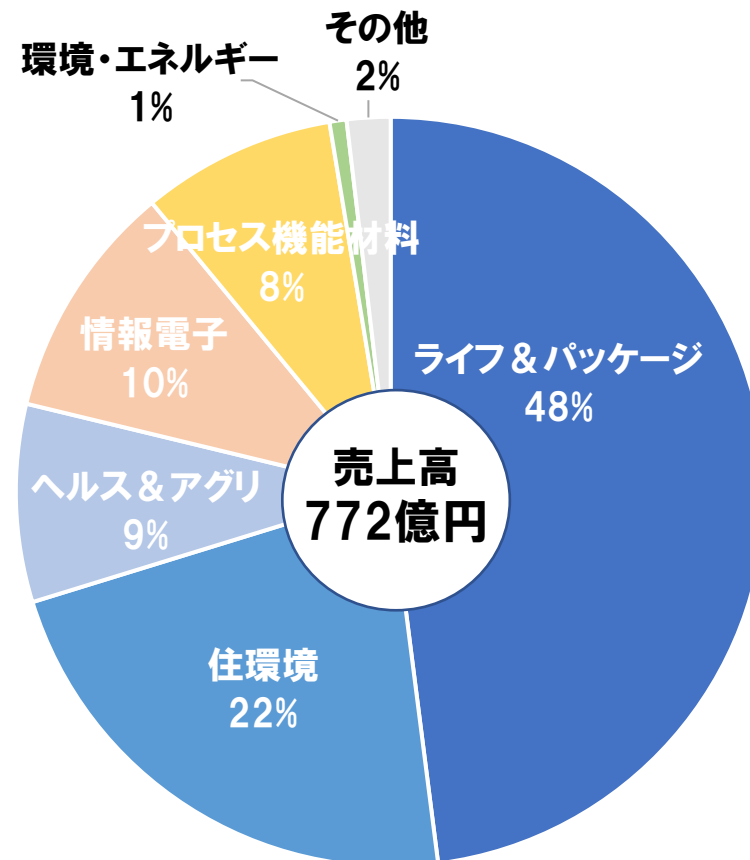
当社の事業所とグループ会社



セグメント別、領域別売上高比率



セグメント別売上高比率
(2022年)



領域別売上高比率
(2022年)

事業紹介

合成樹脂事業

ライフ&パッケージBU

シュリンクフィルム

中間物流用の重量物包装や集積包装、食品を直接包装するものなど、オリジナルのデザインや形状を生かしたまま、商品をより美しく安全に包み込む。用途に応じた独自の機能を付与すると共に、印刷などの二次加工や包装システムなどを提案。

軟包材

ナイロン・ポリエステル・ポリエチレンなどのさまざまなフィルムを貼り合わせることにより、それぞれの特性を活かした機能的な複合フィルムのこと。冷凍食品の包装やIC基盤の保護用フィルム、詰め替え用のスパウト付きラミネート袋など、身近なところから最先端の電子材料にまで幅広く提供。

リキッドパック

液体包装容器の総称であり、段ボール箱内で使用されるバッグインボックスとドラム缶内で使用されるバッグインドラムに大別される。醤油などの食料品や化学薬品などの液体輸送の合理化に寄与。

【用途例】

乳酸菌飲料集積用、カップ麺、酒パック等の包装フィルム、食品トレイ包装用バリアフィルム



【用途例】

食品、洗剤、柔軟剤、シャンプー、ペットフード、お菓子等



【用途例】

ミネラルウォーター、油脂加工製品、調味液(醤油、ソース等)、液体肥料、液体洗剤、接着剤



事業紹介

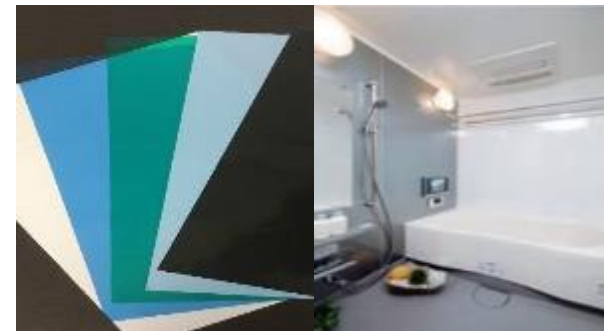
合成樹脂事業

プロセスマテリアルBU

電子・エネルギー・住宅・メディカルなど様々な分野の主材や基材を提供。液晶パネルに使用される位相差フィルムの保護用フィルムなど、独自の樹脂ブレンドノウハウ・高い製膜技術・徹底した品質管理で最適なソリューションを提供。

【用途例】

光学、電子、電気製品、自動車、ユニットバス壁面、ドア・クローゼット・床などの建装材など



ベーシックマテリアルBU

規格袋・ごみ袋・包装/梱包荷材など、各種既製品はもとより、食品・衛生材料・家庭紙・日用雑貨・産業資材・医薬・洗剤・化粧品・印刷出版物など幅広い分野で製品の包装に使われているポリエチレンフィルムを提供。

【用途例】

規格袋、日用品、食品用パッケージフィルム、衛生材料用フィルム



アグリマテリアルBU

農業用の機能性フィルムであり、全国の農家から親しまれている製品。農作業の省力化と作物の収穫増のために、保温・地温上昇抑制・害虫忌避・抗菌・生分解といったさまざまな機能を持つ製品をラインアップ。

【用途例】

農業用フィルム、肥料の保存



事業紹介

新規材料事業

機能材料BU

TPEチーム(ウレタンフィルム)

機械的・化学的・電氣的等著しい機能を持つウレタンやフッ素系等の単層、多層フィルムをメディカル分野や自動車部品メーカー等に提供。

【用途例】

創傷用被覆保護ドレッシング
プリント接着用シート
印刷転写用シート
ヘッドレスト
ペイントプロテクションフィルム



BLTチーム(シームレスベルト・樹脂被覆ローラ)

プリンター等の画像情報機器に必要な電子機能を持つベルトやチューブをプリンター・複写機メーカーに提供。

【製品種類】

LBP用中間転写ベルト
クリーニングローラ
転写ローラ

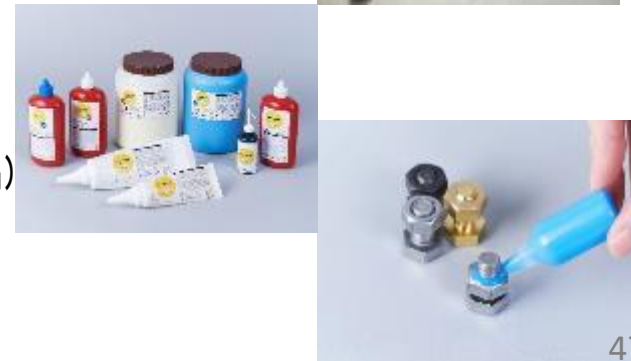


ADHチーム(アクリル接着剤)

3タイプの硬化機構の無溶剤型アクリル接着剤を車輛・電気・鋼板・鋳型模型からゴルフクラブまで幅広い市場に提供。

【用途例】

モーターマグネット(電気自動車部品)
塗装鋼板
ゴルフクラブ
鋳型模型



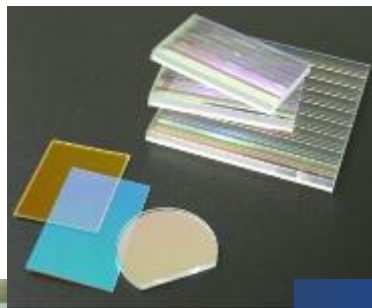
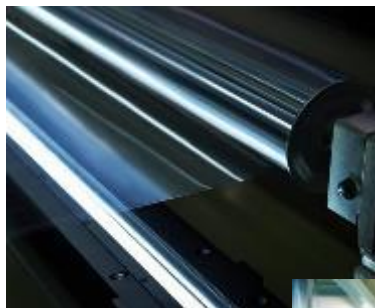
事業紹介

新規材料事業

電子材料BU(加工)、光学材料BU(製膜延伸)

MNTチーム、KEチーム、PLMチーム、CTチーム、MCSTRチーム

大型から中小型サイズの液晶ディスプレイを始め、タッチパネルや液晶プロジェクター等、電子表示体のキーマテリアルとなる各種光学機能性フィルムをFPDメーカー等に提供。



事業紹介

建材事業

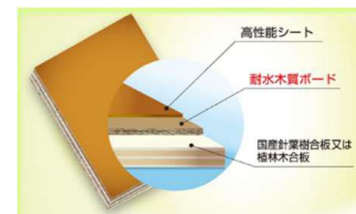
木質ボード事業：パーティクルボード(素板)

木質廃材を細かくしたチップに接着剤などを混ぜた原料を高温でプレスし固めたパーティクルボード。木質廃材を焼却せず製品としてリサイクルしており、二酸化炭素の排出を抑制し、地球温暖化の防止に寄与。



土木・建設資材事業：環境貢献型枠(木守®)

国産針葉樹合板又は植林木合板に、平滑性に優れた耐水木質ボードを練り合わせ、表面に高性能シートをラミネートしたコンクリート型枠用合板。ラワン型枠用合板と比較しても強度、耐久性など同等の品質、性能をもっている。



住宅部材事業：省施工構造断熱パネル

構造用耐力面材と断熱材などが全てセットになっている。パネル施工と同時に断熱工事が完了するため、日数の短縮、職人不足や大工の労力軽減に繋がる。



建築・土地造成事業：株式会社オークラハウス

香川県丸亀市に本社があり、県内の新築、リフォームを手掛る。エネルギー収支ゼロを目指したゼロ・エネルギー住宅や国土交通省が定めた耐震性能最高等級「耐震等級3」相当で建てるなど、快適に安心して永く住んでもらう住宅を提供。



木材加工事業：株式会社オークラプレカットシステム

香川県丸亀市に本社があり、木造建屋宅用構造材加工（プレカット加工）及び木造建屋用資材（建築金物・基礎素材等）の仕入販売を行っている。よりよい家を作るために、数々の建築データを基に、安全に現場での作業を迅速に行えるプレカットされた木材を、日々つくり続けている。



事業紹介

その他関連事業

ホテル事業：オークラホテル株式会社

香川県丸亀市に本社があり、オークラホテル丸亀を営業。
オークラホテル丸亀は瀬戸内海を一望する最高のロケーションで
ビジネスや観光の拠点に便利な立地。



情報処理事業：オークラ情報システム株式会社



香川県丸亀市に本社があり、ソフトウェア開発やコンピュータシステムの運用、保守パッケージソフトの製造・販売、コンピュータ機器販売を手掛けている。ニーズを拾い上げ、形にするまでトータルでサポート。

当社の強み

さまざまな分野・業界への
製品対応力

様々な業界のお客様とのお取引により
多様化するニーズにマッチした製品を
高い技術力を生かし供給し続けています。



当社の強み

材料設計開発

ポリマーブレンドアロイ
有機無機ハイブリッド
重合、多層化



加工技術

製膜、延伸、塗工、印刷、
貼合、加圧、抽出、+ α



用途・形態・使用条件にマッチした材料と
製造プロセスでお客様のご要求に対応

大倉工業の沿革 | 戦災後の混乱期からの出発

創業の意義 【創業者 松田 正二】

高松、倉敷飛行機勤務時に終戦を迎え、80数名の従業員的生活を守ることと、戦後社会の復興と人々の役立つ為に事業を起こす

世の為 = 社会に役立つ

人の為 = 従業員を守り、人々に役立つ

復興に不可欠な住宅とその材料販売で創業



高松製材所の風景



木材市売の四国住宅の頃

1945	岡内製材所として製材・小型の復興住宅を販売
1947	四国住宅株式会社を設立 ⇒ 創立記念日
1949	高松(東浜町)にて木材市売りを開始
1951	四国実業株式会社に商号変更 倉敷ビニロンを発売
1952	丸亀(城西町)にて木材市売りを開始
1955	ポリエチレン加工に着目し製造装置を購入

大倉工業の沿革 | 第一期【黎明】偉大な歩み

国内に原料メーカーが無い中で、ポリエチレンフィルムの将来性に着目

当該事業の開始を機に社名(商号)変更

長年勤務しお世話になった倉敷紡績と大原社長から一字ずつ戴く

倉敷紡績 社長

大原 総一郎氏

倉敷 紡績株式会社



1955 【全体】大倉工業株式会社に商号変更

1956 【合成】ポリエチレンフィルム本格生産(港町)

1959 【合成】東京工場操業開始
その後、大阪工場、福岡工場を立て続けに建設

1962 【全体】大阪証券取引所第2部市場に株式上場
【合成】本社工場操業開始
【建材】ラワン合板事業に進出

1964 【合成】岡山工場、熊本工場、静岡工場を建設
【建材】プリント合板製造開始

1967 【合成】埼玉工場操業開始



高松本社ビル



本社工場構内

大倉工業の沿革 | 事業の拡大

1968	【建材】 詫間工場操業開始、【他】 冷凍倉庫事業開始
1970	【全体】 東京・大阪両証券取引所第1部市場に株式上場
1971	【建材】 パーティクルボード製造開始
1972	【全体】 本社を香川県丸亀市に移転
1973	【他】 四国初のマンション(大倉マンション)建設 「オークラホテル高松」をオープン
1977	【合成】 丸亀第四工場操業開始
1987	新規材料事業部を新設
1988	【他】 「オークラホテル丸亀」がオープン
1992	オークラ情報システム(株)設立 【合成】 製版会社(株)ユニオングラフィア設立 丸亀第五工場操業開始
1995	中国に「無錫大倉包装材料有限公司」を設立 【合成】 仲南工場操業開始
1996	【建材】 詫間工場で爆発事故



オークラホテル丸亀



新規材料事業部(A棟)

大倉工業の沿革 | 新たな事業で拡大

液晶ディスプレイ用光学フィルムの事業拡大

2000 【新規】 光学フィルム工場C棟操業開始
偏光板事業「オー・エル・エス(有)」を設立

2001 【合成】 福岡・熊本の2工場を統合し九州工場操業開始

2004 【新規】 光学フィルム工場D棟操業開始
【合成】 「(株)九州オークラ」を設立

2006 【合成】 「(株)OKプロダクツ岡山」、
「(株)オークラプロダクツ香川」を設立

2007 R&Dセンターを新設
【合成】 「(株)関西オークラ」、「(株)関東オークラ」を設立

2009 【他】 「(株)オークラプレカットシステム」を設立



新規材料事業部(C棟)



新規材料事業部(D棟)

大倉工業の沿革 | 技術優位な企業集団を目指して

経営品質を高め、技術優位な企業へ

経営基盤を強化し、要素技術を進化させる

2012	【合成】「尤妮佳包装材料（天津）有限公司」を設立 【建材】パーティクルボードJIS認証取り消し
2013	第四次中期経営計画スタート JIS認定再取得
2014	【新規】仲南G棟操業開始 オー・エル・エス新ライン増設 【合成】関西オークラ新工場(第3工場)操業開始
2016	第五次中期経営計画スタート 監査等委員会設置会社に移行
2017	会社創立70周年
2018	代表取締役交代
2019	【合成】「(株)埼玉オークラ」を設立
2022	【合成】「(株)KSオークラ」を設立



新規材料事業部(仲南G棟)
10.5世代パネル対応の
最新工場



関西オークラ(第3工場)

本資料に関する注意事項

本資料に掲載されている業績予想・事業計画は、当社が現時点で入手可能な情報及び種々の前提に基づき作成したものであり、実際の業績等の結果は、今後生ずる様々な要因によって、予想・計画とは異なる場合がございます。

本資料は、情報提供のみを目的としたものであり、当社が発行する有価証券の売買を勧誘することを目的としたものではありません。

2022年12月期 決算説明資料

2023年2月22日
大倉工業株式会社



END